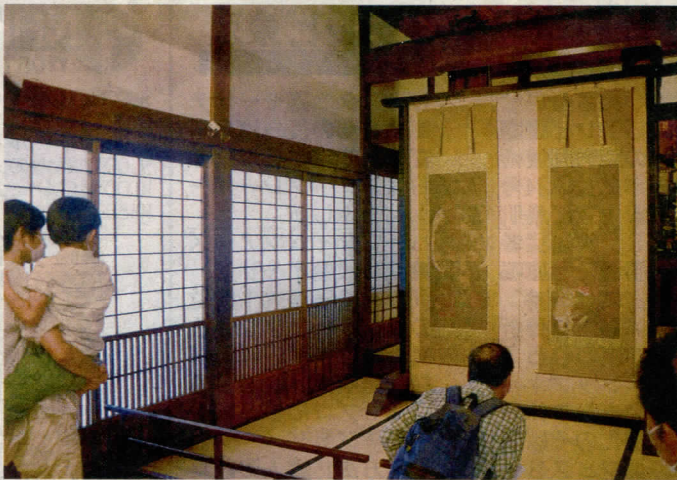


国重文の寺宝「絹本著色羅漢像」

修復後初の御開帳

5年ぶり一般公開 より細やかに

諏訪の教念寺



諏訪市小和田の教念寺(富田邦道住職)は17日、京都の文化財の寺宝「絹本著色羅漢像」の修復後初の御開帳を始めた。一般公開は約5年ぶり、以前より細やかな表現が鑑賞できるようになったという。

釈迦十大弟子の2人をそれぞれ描いた双幅で作者は不詳。鎌倉時代の作とされ、1801年同寺に贈られた。2020年6月に京都国立博物館文化財保存修理所へ送られ、約1年半をかけて修復。1年間の保存期間を経て、今年再び公開がかなった。拝観者の中には修復前の写真と見比べて鑑賞する人もいた。

同市指定有形文化財の「紙本著色當麻曼荼羅」も合わせて開帳している。18日まで。
同羅漢像は、

同曼荼羅図は1709年に制作され、52年に同寺の所蔵になった。當麻寺(奈良県葛城市)が収蔵し、藤原豊成の娘、中将姫が763年に織り上げたという国宝「綴織當麻曼荼羅」の第5転本。専門家による絵解き解説も公開に合

わせて実施された。

修復前にも羅漢像を拝観したことがあるという山田隆康さん(73)「岡谷市長地」は「全体的にきれいになり、はつきりとした。5年ぶりということで貴重な体験ができた」と話していた。

同寺信徒総代の藤森順三さん(75)「諏訪市小和田南」は「作品に込められた思いを感じてもらえれば幸い。貴重な文化財をこれからも後世に伝えていければ」と語った。18日の公開は午前10時〜午後1時。

引き続き、法要と法話を実施する。(平岡大輝)